

令和5年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和5年5月18日（木）14：00～16：30

場 所：WEB（ZOOM）会議のため、各施設にて

出席者：11名

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、横田美佐（県立宮古病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、島袋百代（ハソキャンジヤハソ沖縄アフィリエイト）、樋口美智子（沖縄国際大学）、上原弘美（友愛医療センター）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

欠席者：4名

糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）

陪席者：4名

有賀拓郎（琉球大学病院）、宮城千秋（県立八重山病院）、比嘉優花（琉球大学病院事務）、松田亮子（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和4年度第4回情報提供・相談支援部会議事要旨(令和5年2月9日)

資料1に基づき、仲宗根委員より、令和4年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. 2023年度版「おきなわがんサポートハンドブック」について

資料2に基づき、琉球大学病院がんセンターの比嘉さんより、がんサポートハンドブック作成について報告があった。例年通り、がん患者さん、各関係機関からなる編集委員会を設置し内容を検討。昨年度からの大きな改訂はなく、2万5千部を県と調整し関係機関へ発送した。新聞広告、ポスターなどで冊子版・WEB版の周知をはかっている。2024年度版は、昨年度掲載できなかったアピアランスケアや小児がんについての情報を詳しく掲載する計画がある。

【協議事項】

1. 部会委員及び部会長の選定について

資料3に基づき、友利委員より、これまでの委員選任の経緯説明があり、委員の変更について、県立宮古病院の横田美佐委員が承認された。また、部会長・副部会長は前年

度より引き続き任命された。

部会長 那覇市立病院 仲宗根恵美

副部会長 琉球大学病院 大久保礼子、 県立中部病院 玉城佐笑美

2. 令和5年度部会計画

資料4の通り、令和5年度の活動計画が提案され承認された。

3. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）「3. 共生分野」について

資料5と当日資料に基づき、増田委員よりロジックモデルについて説明後、個別施策の検討を行った。

（1）相談支援

- ・人材配置について。がん専門相談員の配置。専門員基礎資格以外の勉強が必要。専門的なカリキュラムを受講した相談員を配置する。
- ・がん相談支援センターに準じた組織を構築（あり方については各病院で検討）。
- ・がんを診療しているクリニック等は、拠点病院の相談支援センターと連携をとる。
- ・ピアサポートが利用できることを周知する。

（2）情報提供

- ・県はがん診療に関するホームページの表記をわかりやすくする。
- ・がん診療に関する情報があることを広報する。
- ・障がい者、外国人等含め、あらゆる人にとってわかりやすい情報提供できるようにする。

（3）デジタル化

- ・沖縄県内のがん相談支援センター利用案内を作成し、待合室などでデジタル配信する。

（4）就労支援（医療）

- ・事業所と医療機関との連携を強化し、お互いに相談がしやすい体制をつくる
- ・個人事業主への支援体制の強化

（5）就労支援（職場）

- ・長期療養に入る従業員を把握した場合には、職務情報を患者同意のもと提供し、医療機関と連携を図る
- ・ハローワークや産保センターと協働する

- ・柔軟な働き方の相談ができる体制がある
- ・就職支援ナビゲーター、両立支援員、社会保険労務士と事業主の協働について→治療中の方の新規採用支援、産保センターは在職中の方の支援として明記は必要
- ・個人事業主への支援体制の強化・拡充
- ・事業所と医療機関との連携強化。お互いに相談がし易い体制をつくる。定期的な意見交換会。

(6) アピアランス

- ・担当医は、治療による副作用についてあらかじめ説明し、アピアランスケアに関する相談部門について情報提供する
- ・県はアピアランス支援センターを立ち上げ支援できる体制を作る（県拠点病院または各拠点病院に設置する）
- ・化学療法室にアピアランスケアの研修を受けた職員を配置する
- ・県はアピアランスケアに関する助成金を交付する
- ・県はアピアランスケアに関する、患者向けの講習会を開催する
- ・無償でケア帽子を配布する
- ・研修受講済み職員の配置・アピアランスケアセンターの設置
- ・拠点病院等はアピアランスに対応出来る体制と環境を整備する。（プライバシーが確保された場所。誰でも気軽に利用出来る場所）
- ・県内でアピアランスケアに取り組んでいる患者会や美容室などについての情報を得やすくする。（県のホームページ等へ掲載）

(7) 自殺対策

- ・入院・外来問わず、気持ちの辛さや問題を、精神科に相談できる体制を作る
- ・精神腫瘍内科医の配置を推進する
- ・外来患者の自殺対策マニュアルを策定する
- ・保健所や精神保健福祉士会、公認心理師会との連携。気軽に相談が出来る体制の構築。
- ・精神科受診を拒否する方への支援として、保健所（精神保健グループ等）の介入、訪問があると良い。
- ・がん患者の診療を対応出来る医療機関、クリニックの一覧を公開

(8) その他の社会的な問題

- ・学校で早期からがん教育を行う
- ・市町村や保健所などが中心となり、公民館や地域包括支援センターなどを活用した、住民向けのがん勉強会や相談会の開催。

- ・がん相談員やピアサポーターはサブとして参加し、がんに対する正しい知識等を伝えていく。
- ・予防接種、がん検診受診率アップの働きかけ

4. おきなわがんサポートハンドブックについて

資料6に基づき、増田委員より『がんサポートハンドブック』に関する要望があった。後日、メーリングリスト上などで意見収集を行うこととなった。

- (1) おきなわがんサポートハンドブックをどのような形にするのか。
- (2) がん情報提供資材（がんサポ）編集委員会をどのように進めていくか。
- (3) がん情報提供資材（がんサポ）編集委員の推薦についてご協力いただきたい。
- (4) 2023年度版がんサポートハンドブック追加配布場所についてご検討いただきたい。

【報告事項】

3. がん患者ゆんたく会（1～3月）

資料 7-1～7-3 に基づき、令和5年1月～3月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は玉城委員より報告があった。1月は参加者の三線の演奏、新年度の抱負発表、歯科衛生士に口腔ケアについて講演頂いた。2月はフリートークで最近の出来事や楽しかった事、またがんになった方を支える家族の思いについて話題に上った。3月は『色の持つ心理効果とリラクゼーション』のテーマでカラーセラピーを開催。和やかな雰囲気で行われた。那覇市立病院は仲宗根委員より報告。1月は栄養士とPT・OTによる『がん治療中の食事と栄養』と『自宅でできる運動療法』というテーマで開催。栄養士からサンプルや試供品、お土産などあり、皆関心があることなので和気あいあいとした様子だった。レトルトカレーや配食サービス等、抜きながら食事をする方法などの話があった。3月はピアサポーターの西村さんと上地さんに参加いただき開催。病院スタッフを除く10名の参加があり、話しやすい様子で和やかな雰囲気だった。琉球大学病院は友利委員より報告があった。通常通り対面で開催。1月、3月はフリートーク。2月は栄養士による講演会を開催。フリートークでは、副作用の対応について看護師や栄養士への質問が多かった。パンキャンジャパン沖縄は島袋委員より報告。2月にカフェで開催し、患者・ご家族11名、ボランティア3名が参加。参加者が増えてきている印象。患者さんが予後についての気持ちを吐露し、参加者同士で励ましあったりお互いの気持ちを共有、また家族としての気持ちも共有ができ、有意義な時間になった。

3. がん相談件数（1～3月）

資料 8-1～8-6 に基づき、令和5年1月～3月の各拠点病院のがん相談件数について

報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

1月31件、2月31件、3月25件。主治医から告知される方で自殺予防も含めて告知後に緩和ケアの看護師と面談、同席してはと医局から意見がでている。去年より、独居の患者さんで自宅に帰りたいという希望者が多く、病棟のスタッフ付き添いで2～3時間自宅に帰って過ごすという事を取り入れている。

○県立中部病院（玉城委員）

1月72件、2月69件、3月77件。院内は対面が主で、院外は電話での相談が多い。相談内容は不安や精神的な苦痛、ホスピスとの連携、在宅療養、セカンドオピニオンの対応があった。がん治療の終了後在宅療養となったが、家族の相談があり訪問看護師と連携し支援を行った。医者とのコミュニケーションでの相談対応や外来時の待ち時間等について外来看護師と連携し対応をおこなった。

○那覇市立病院（仲宗根委員）

1月106件、2月141件、3月127件。これまでの相談内容、患者さんの院内の数等は変わりなく、相談内容として在宅医療や介護、医療費についての相談が多かった。2月は患者さんと家族間の関係やコミュニケーションの相談が多く、家族の間に入り思いを伝えたり、ICのセッティングをおこなった。

○県立宮古病院（横田委員）

1月47件、2月31件、3月23件。独居で治療場所についての悩みがあり、身内が宮古にいないので親族とライン通話を通じて主治医から説明を聞くという症例があった。また、治療では効果がなく高額な治療薬に変更になることになり、ソーシャルワーカーや医事課の方に協力していただき、ネット等を活用し説明をしてもらい対応したケースもあった。

○県立八重山病院（岩崎委員）

1月97件、2月68件、3月75件。転居後に抗がん剤治療をできるか問い合わせがあり、実際に転居してきた方の受診総数などを提示して対応した。

○琉球大学病院（大久保委員）

1月75件、2月80件、3月77件。治療状況について、1月は緩和ケアの段階の方、治療中の方、治療前の方の順が多かったが、3月は治療前の方が多くなっていた。治療前の方が増えたのは、院内誘導方法で、初診時治療前の方はがん相談センターへ初診時予約を入れていただいで来てもらう、という取り組みを始めた為現れた件数になった

と考えられる。相談内容について、緩和ケアや在宅調整の相談が多いが、3月は医療者との関係・コミュニケーションと患者・家族間のコミュニケーションが微増している。2022年度1年間の院外からの相談内容を報告すると、他施設入院中・他施設通院中・受診医療機関なし、不明、その他の相談が213件あった。その中で当院のIDなしの方が132名。IDありで他施設にかかっている方が半数近くあった。相談入手経路はインターネットからが多かった。また病院にある資料や病院関係者から聞いた方、がんサポートハンドブック、新聞広告、院内掲示、パンフレットを見ての問い合わせとなっている。相談内容は、セカンドオピニオンの相談、当院へ受診希望。ホスピス・緩和ケアに関する相談。不安・精神的苦痛で、がんと言われて不安で仕方がないなど。医療者との関係・コミュニケーション等の相談があった。

4. がん相談件数集計（令和4年度）

資料9の通り、各拠点の相談件数集計の統計表に基づき友利委員より報告があった。相談支援センターに関する情報入手経路について、北部地区医師会病院は担当医からの紹介が増えている。治療状況は治療中の方が多く、8月の指針改定で初回治療前までとなり治療開始前も伸びてきている。がん部位に関して5大がんが多く、中部病院や琉大病院は耳鼻科が多い。北部地区医師会病院は小腸や希少がんの件数が増えている。相談内容は、琉大病院以外は不安精神的苦痛が非常に多かったのが例年の特徴。ホスピスも増えているが、在宅医療の相談、訪問診療・訪問看護の相談が多い。琉大病院に関してはホスピス・緩和ケアの相談が多い特徴がある。全体としてはホスピスの相談件数が増加しているが、在宅の件数が多く日常生活や介護のサポートの相談・調整が多い。担当医からの紹介も増えている。

5. がん相談支援センターの広報

資料10に基づき、がん相談支援センターの広報について友利委員より報告があった。昨年度の12月より掲載依頼を月一回ではなく、毎週掲載するよう依頼することにより、毎週木曜日に電話相談が増えている様子。引き続き広報依頼を行う。

6. 地域統括相談支援センター活動報告

資料11に基づき紙面報告。

7. 沖縄県地域統括相談支援センターからの5つの提案について

資料12に基づき友利委員より報告があった。(1) 患者サロンへのピアサポーターの受け入れおよびピアサポート活動については、那覇市立病院で活動を行っている。今後他院とも日程調整していく。(2) 出張ピアサポートの開催については日程調整中。(3) オンラインゆんたく会への専門相談員の持ち回りでの参加については、年間日程表が決定

した。(4) がん患者会意見交換会への専門相談員の参加については、夏ごろと来年の2月に調整中。(5) 専門相談員のアピアランスに係る研修への参加については、10月開催予定となっており参加申し込みした方は連絡いただきたい。

8. その他

(1) 大久保委員より、相談員研修修了者アンケートの実施について報告があった。

相談員基礎研修等修了者が各病院に何名いるのか調査する経緯としては、今年度国がん主催の指導者研修に、友利委員、仲宗根委員、糸数委員が参加することになった。この研修自体は、県下のがん相談に携わる方へ向けた研修企画について学ぶ研修になっている。7～8年前も同様に、指導者研修受講のタイミングでアンケートを行ったことがある。部会としても研修企画をする上で地域の学習ニーズや現状を知る必要があったため、連動する形で実施。研修修了者だけ相談の現場から離れている方、非拠点にどれぐらいの修了者がいるのか把握することで、研修を開催する際ファシリテーターとして連携や協働ができると考えている。

(2) 仲宗根委員より、令和5年度第1回沖縄県がん相談員実務者研修会の開催企画について報告。那覇市立病院で9月に対面で開催予定。精神疾患とがんというテーマで、『精神疾患を抱える方への支援』についての講義とグループワークを予定している。

(3) 友利委員より。沖縄県保健医療部の小波津委員から、部会で提出している相談件数集計のデータを県議会の対策で使用したいと依頼があり、エクセルデータで提供させていただきたいと要望があり、承認された。今回はメールや電話での依頼だったが、今後のデータ依頼については、申込の書類を作成することとなった。

(4) アピアランスケアに関する各病院の取り組みについて

- ・那覇市立病院 仲宗根委員：現在は相談センターで対応しているが、アピアランスケアセンターのようにできていないと感じる。相談センター内にある物で、相談員で話しながら必要であれば患者会でアピアランスをおこなっている場を紹介している。

- ・中部病院 玉城委員：化学療法室と連携している。

- ・パンキャンジャパン沖縄 島袋委員：化学療法室で説明して頂けると安心。

- ・琉大病院 増田委員：本来は、担当医・主治医が事前に説明すべきだけど、現実と

しては外来化学療法室の看護師が説明している。

- ・ 琉大病院 友利委員：化学療法認定看護師や、緩和ケアセンターのがん看護認定看護師などが対応している。薬剤師も化療室を訪れて使用薬剤の説明の中で相談があれば対応している姿を見かける。
- ・ 友愛医療センター 上原委員：アピアランスの相談を受けた場合、基本的な話ができるが、より専門的なケアが必要な場合は化学療法室の認定看護師にお願いしている。院内のがん治療センターの中に化学療法室、放射線治療室、がんサロンがある。ウィッグや情報などのパンフレットを置いており、認定看護師が対応できないときは他の職員が対応している。
- ・ 質問：大久保委員（琉大病院）→アピアランスについて、外来や病棟の看護師さんの普段のケアの中で話が出ることもあるのか、またその場合専門の看護師が引き受けるのがいいと感じることもあるのか？
- ・ 回答：玉城委員（中部病院）→病棟ではそこまで介入できていない。相談室に連絡をもらった時に、病棟に行き対応している。化学療法前ではアピアランスのウィッグについて話す、爪囲炎といった皮膚症状などは化学療法の認定看護師が化学療法室で対応している。

(5) 次回開催は、令和5年7月13日(木)、14時から開催。